

各関係機関団体の長 殿
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所筑後支所長

平成23年度病虫害発生予察速報第1号について

このことについて、病虫害発生予察速報第1号を発表したので送付します。

イグサ

速報第1号

- 1 対象作物：イグサ
- 2 **病虫害名：イグサシンムシガ**
- 3 発生地域：県南地域
- 4 発生時期：平年並・前年より遅い
発 蛾 最 盛 期：越冬世代成虫の発蛾最盛期は4月22日
第一世代成虫の発蛾最盛期は6月13日（予測日）
- 5 発 生 量：平年・前年よりやや少
- 6 速報の根拠
 - (1) 4月8日に実施した現地ほ場における越冬後被害調査の結果、被害株率0.07%（平年2.8%、前年1.2%）、被害茎率0.001%（平年0.06%、前年0.02%）であった（第1表）。
 - (2) 4月15日に大川市で越冬世代成虫の初発生が認められ、大川市中木室のほ場での払い出し調査の結果、越冬世代成虫の発蛾最盛日は4月22日（過去8ヵ年平均4月21日、前年4月12日）であったと考えられる（図1）。
 - (3) 越冬世代成虫の発蛾最盛期をもとに、久留米市の平均気温（平年値）を用いて有効積算温度を計算した結果、第一世代成虫の発蛾最盛期は6月13日（過去8ヵ年平均6月10日、前年6月8日）と予測される。
なお、福岡管区气象台の1か月予報(4月22日発表)によると、向こう1か月の気温は平年並とされている。
 - (4) ほ場の成虫払い出し調査の結果、本年の越冬世代発蛾最盛期における成虫数は、10頭（前年9頭）であった。
- 7 防除上注意すべき事項
 - (1) 越冬世代幼虫による被害状況（第1表）及び成虫の発生状況は、ほ場間に差が見られることから、ほ場での成虫の発蛾最盛日を見極め適期防除に努める。
 - (2) 第一世代幼虫の防除適期は、越冬世代成虫の発蛾最盛日の約1週間後とその1週間後である。本田での第一世代幼虫の防除が重要であるため、この2回の防除を徹底する。
 - (3) 第二世代幼虫の防除適期は、第一世代成虫の発蛾最盛日の約1週間前と発蛾最盛日頃である。第二世代幼虫は「長イ」を加害し、収量・品質に大きな影響を与えるため、この2回の

防除を徹底する。

- (4) 第一世代成虫の発蛾最盛期は6月13日と予測されるが、今後の気温により変動するので防除時期に注意する。
- (5) 地域や育苗方法等によるほ場間差が大きいので、ほ場での発生状況を観察して防除時期を判断する。
- (6) 防除薬剤は、「平成23年度病害虫・雑草防除の手引き」を参照する。(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/tebiki/pe-ji/igusa/igusabyougaityu.html>)

農薬散布の際は、使用基準を遵守し、薬剤のドリフト防止には細心の注意を払う。粒剤の使用に当たっては農薬のラベルに記載されている注意事項を確認するとともに、止水期間を1週間程度とし農薬の流出を防止する。

第1表 イグサシムシガ越冬後被害調査結果

調査日	調査場所	被害株率 (%)	被害茎率 (%)	在虫茎数 (本)	在虫茎率 (%)
4月7日	柳川市三橋町磯島	0	0	0	0
	大川市中木室	0.2	0.003	0	0
	大川市本木室	0	0	0	0
本年		0.07	0.001	0	0
前年		1.2	0.02	0	0
平年		2.8	0.06	0.1	0.0

頭数/180m²

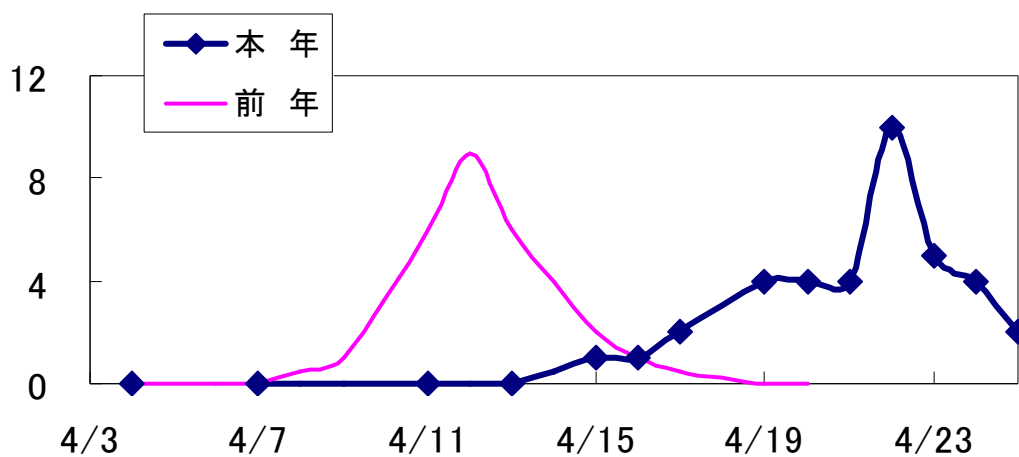


図1 イグサシムシガ越冬世代成虫払い出し頭数の推移